「岩手の幸福に関する指標」研究会（第５回）

（開催日時）平成 29 年４月 28 日（金）10：00～12：00
（開催場所）岩手県立大学アイーナキャンパス７階学習室１

１　開　会
２　挨　拶
３　協議事項
　（１）今後のスケジュールについて
　（２）県民参画等の方法の検討について
　（３）具体的な客観的指標の例について
４　報告事項
　平成 29 年県の施策に関する県民意識調査結果（速報）について
５　その他
６　閉　会

出席委員
　吉野英岐座長、竹村祥子委員、谷藤邦基委員、若菜千穂委員

１　開　会

○竹澤政策地域部政策推進室評価課長　それでは、出席を予定している委員の皆様がお揃いになりましたので、第５回「岩手の幸福に関する指標」研究会を開催します。

２　挨　拶

○竹澤政策地域部政策推進室評価課長　私は、事務局を担当しております岩手県政策地域部政策推進室評価課長の竹澤と申します。４月より担当させて頂いております。どうぞよろしくお願いいたします。それでは、藤田政策地域部長より、御挨拶を申し上げます。

○藤田政策地域部長　政策地域部長の藤田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。今日は大変お忙しい中、研究会のためにお集まりいただきまして、大変ありがとうございます。私自身今月着任いたしまして、それ以来幸福度というものについて、私自身に当てはめながら考えたりいたしまして、勉強しているところでございますけれども、昨年 11 月には中間取りまとめということで、中締め的にとりまとめをしていただきまして、吉野座長様から総計審のほうにまたご報告をしていただいたところでございます。今後は８月下旬の最終報告の取りまとめを目指して、今日は県民参画の方法あるいは客観的な指標の例とか、そういったところについてまたご議論いただいて、ご指導いただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

○竹澤政策地域部政策推進室評価課長　以降は座って進めさせていただきたいと思いますので。

それでは、議事に入ります前に資料の確認をさせていただきます。本日の資料は、お手元に配付しております資料１から５となっております。お手元の資料のご確認をお願いいたします。お手元には青のドッチファイルで、これまでの研究会の資料を準備しておりますので、必要に応じて御覧いただければと思います。

３　協議事項

（１）今後のスケジュール

○竹澤政策地域部政策推進室評価課長　続いて、協議事項に入りたいと思います。議事の進行につきましては、吉野座長にお願いいたします。

○吉野英岐座長　皆さん、おはようございます。今お話ありましたように、ちょっと間が空きましたけれども、また本年度も引き続き同じメンバーで「岩手の幸福に関する指標」研究会を進めていきたいと思います。よろしくお願いいたします。

お手元にある議事次第に沿って今日も進めていきますので、12 時までということですね。

○竹澤政策地域部政策推進室評価課長　はい。

○吉野英岐座長　よろしくお願いいたします。

それでは、（１）の今後のスケジュールについて事務局からお願いします。

【資料No.１説明】

○吉野英岐座長　ありがとうございました。資料１に書いてあるとおりですので、本年度はあと３回ほど委員会、研究会を開いていきたいということでございます。よろしいですかね。

「なし」の声

○吉野英岐座長　では、これはこのとおりということです。

（２）県民参画等の方法の検討について

○吉野英岐座長　続きまして、２番は県民参画等の方法の検討についてということでございます。それでは、これもまた事務局からご説明お願いします。

【資料No.２、３説明】

○吉野英岐座長　ご説明ありがとうございました。今お話ありましたように１月に２回、県庁の若手入れて２回、３月に１回ということで、真ん中で内田先生のご講演会が２月に入ってきたということで、この１月、２月、３月は結構活動していただいたところでございました。若菜委員にはかなり頑張ってもらいましたので、全体を振り返ってみてどんな感じだったかを教えていただければと思います。

○若菜千穂委員　グラフとかについては、県の方が一生懸命誰でも参加しやすいような記入シートを作っていただいて、そのおかげで学生さんも一般の方も良くできたのではないかなと思っております。

一般の方は本当に一般というよりは、基本的にワークショップを開催する中間支援的な開催側の人達にやってもらって、こういうのを使って他のところでもできないかという、そういうようなイメージでやりましたので、一般の人よりはちょっと突っ込んだ、ここはもうちょっとこうしたほうがいいのではないかという具体的な提案もいただけて、それも取り入れたいと思っておりますので、本当の本番通りとまではいかないかなというところです。

○吉野英岐座長　幸福が見える化するのですけれども、その点は何か感じるものはありましたか。

○若菜千穂委員　幸福の見える化、得点についてもやっぱり結局は総体的な評価で、５点満点のうち３点台の人とか、２点台の人とかいるのですけれども、隣の人が２点台で、自分が４点台で、自分は幸せだと思っていたけれども、意外と自己評価し過ぎたなみたいな、周りと比べて初めてわかるという感じがあって、本当にいい機会になったようにも思います。

○吉野英岐座長　この手引書というのは改定をしたというのでしょうか、意見を盛り込んだと。

○若菜千穂委員　そうです、これが最終版です。

○吉野英岐座長　最終版。最初にやったときは、この最終形とは微妙にちょっと違うということなのでしょうか。

○若菜千穂委員　そうですね、この手引案は、最終的に私のほうで、主催者が使えるバージョンで作っていたので、最初の学生さんのワークショップとかは、例えば 13 ページのワークショップの手引の部分だけとか、実際には部分、部分の資料を使っていて、それを全体的にもうちょっと変える作業として目的を入れたりとかというような形にしています。

○吉野英岐座長　わかりました。ありがとうございました。

竹村先生にもワークショップにお出になっていただいていますので、そのときのご感想をお願いします。

○竹村祥子委員　学生さんの会に参加させていただいたのですけれども、ファシリテーターのような役を県庁の若手の方にやっていただいたことが非常にいい効果があったのではないかなと思いました。一つは、授業としてやる感じよりは、社会人の若者として参加す

るという気概がだんだん見えてくるようになっていて、それで最後の「私の幸福という宣言」の中で、テーマに対して客観的な、大々的な何かではなくて、なおかつ自分個人のプライベートなものではなくて、ちょうどその間のようなコミュニティーの中で自分がどういうふうに幸福を捉えるのかという主体化のようなものが見える発言が主流だったというのが意外な発見でした。大所高所を考えることと、自分自身の幸せを考えることというのは、何かある意味ではわかりやすいのですけれども、やっぱりその真ん中の部分でコミュニティーの中の自分にとってどうなのかということは、こういう方法によってみえてくるのか、と思いました。若菜委員のお力が発揮されたなと思って敬服しました。

○吉野英岐座長　ありがとうございました。

谷藤委員は、ご参加はできなかったかもしれませんけれども、今のお話を伺っていかがでしょうか。

○谷藤邦基委員　私は残念ながら、ほかの委員会と重なったりして、一回だけ途中までしか拝見できなかったのですが、非常にスムーズな運営で、良くできたワークショップだなという印象が一つあります。

もう一つ思ったのは、見ての感想ということかどうか適切ではないのかもしれないのですが、こういう場に出てくる人は多分余り問題ないのですよね。問題ないということの意味は、色々問題意識を既に持っていただいている人たちだと思うのです。だから、例えば幸福の問題を考えるといったときに、あまねく県民がみんな考えてくれるかというと、これは多分かなり難しい話なのですが、でもやっぱり一人でも多くの人に考えてもらおうと思ったときに、こういう場に出てこない人たちにどう手当てをしたらいいのかなというのをちょっと感じたところです。そんなところです。

○吉野英岐座長　ありがとうございました。

この中身を拝見すると途中で早見表みたいなのがあったらいいのではないかというご意見が出ていて、それを早速お作りになったのがこの 21 ページのようなものですね。これぱっと見て、いろんな数字が並んでいるのですけれども、例えば点数が高いとどういう意味とか、何と説明したらいいのですか、これは。

○政策地域部政策推進室評価担当 成田主査　早見表は、あくまで 18 ページの手順において掛け算とかがありますので、これは計算機がないと厳しいよというご意見があったので、この欄に入れるべき数字を計算するものということで設けました。なので、数値自体をどうやって見ていくかについては、例えば 20 ページのようにグラフ化していって、例えばウエートと実感ですね、それぞれどのような差があるか、そしてその差を見てどういう意味があるか、そして他の人と比べて見ていくといった使い方を想定しています。

○吉野英岐座長　計算して計数を出していくので、その作業をこの早見表でぱっとやれば

すぐわかりますよというところですね。それで 20 ページのようにダイヤモンドと言いましょうか、四角形と言いましょうか、これが出てくるわけですけれども、これがまた人によってかなり形が違うということでいいのでしょうか。

○政策地域部政策推進室評価担当 成田主査　特にウエートですね、何を重視するかというのはかなり人によって違う結果が出まして、そこは非常に話のきっかけとして、活躍したというか、重要視されたところなので、そういう意味では意味があったのかなと考えています。

○吉野英岐座長　さっき見える化と申し上げたのは、人によって幸福というのは重きを置くところが違っていたり、実際感じ方が全く異なるということなので、全部それぞれでなくてそうなってしまうところを一定の何か形をつくって、意外と人と自分は同じだったとか、さっきも言ったように違っていたとか、そういったことを引き出すきっかけにはなったというふうに考えてよろしいのでしょうかね。どっちが幸福だと言われるとちょっと辛いところがありますけれども、いろんなパターンの幸福感があるのだなというところですね。なかなか幸福というのは、人と比較するものかどうかははっきりしないことですけれども、やっぱり気になるところはあるということですね。見ていくと、ああなるほどねということが出てくるということですね。

あと最後、竹村先生がおっしゃった一番最後の 24 ページの幸福宣言と言いましょうか、これを書いていただいて、出し合ったということでよろしいのでしょうか。喋っていましたよね。

○若菜千穂委員　これ実は最初は学生のときに、私が途中で思いついて突然やったような気がしていて。

○吉野英岐座長　先生の機転で。

○若菜千穂委員　学生がやっているとき、締めの達成感がちょっと足りないなとなって。

○吉野英岐座長　ワークショップをやっていて。

○若菜千穂委員　ワークショップやっていて。それで、私の幸福でもいいし、みんなの幸福でもいいし、岩手県でもいいと。それを高めるために何々をしますという、それをすればワークショップだけの会で終わらずに、明日から心がけようかなという、幸福を高めるための一歩になるなというのと、達成感というか、やってみたら意外と良かったですよね。

○吉野英岐座長　書けない人はいないですね。

○若菜千穂委員　いないですね。スタッフのときだったのですかね、県庁スタッフのとき

にやったのですかね。そうだ、そうだ、試しに県庁スタッフでやったときに、これやろうということになって。

○吉野英岐座長　そうなのですか。

○若菜千穂委員　一番最初の試みの県職員スタッフでやったときに。

○政策地域部政策推進室評価担当 木村主査　検討段階、県庁スタッフでやったときですね。

○若菜千穂委員　そうそう。だから、評価で終わらずに、評価した結果を一歩普段の生活に生かすという繋ぎのものとして、これというのはありますね。

○吉野英岐座長　先生も御覧になっていましたね。

○竹村祥子委員　宣言について印象に残ったものですから、何か自制的なというか、自己完結的な宣言が出てくるかもしれないと思っていたのですけれども、そこはやっぱりワークショップの中でブラッシュアップされていったのではないかと思いました。大学生だったということもあるのですけれども。結局身近な話ではあるのだけれども、（県全体といった広域の）地域とか、自分の周りにいる人たちという捉え方よりは身近な地域くらいまでのところの関係で自分は何をするかという発言というか、宣言になっているものが多かったのが意外な点であったと。それから、何か自分が社会のために、自分自身のためにもなるけれども、それが延長上で社会とのつながりを高めるような、宣言があったように思ったのです。

○若菜千穂委員　何か例を出せても良かったのですが、地域のためにラーメンを食べ歩きますとか。ラーメンを食べ歩くのは自分のためなのだけれども、それが地域の元気にも繋がるのだなみたいな、そういう発言も結構あったりしたと。

○竹村祥子委員　だから、それは既定路線の、何かこっちが形式的に求めているようなものではなくて、ちゃんと自分の中で咀嚼されて、ラーメンの食べ歩きのようなものがどう繋がるかというのが直接的には何か政策案になるわけではないのだけれども、ああ、そうか、こういう形で繋がるということなら自分にできるという、こちらが考えていなかったようなものが出てきたことが結構新鮮でいいなと思いました。

○吉野英岐座長　社会人の方にもやったのですか。

○若菜千穂委員　やりました。

○吉野英岐座長　最後のときも。やっぱり想定しなかったような答えが出てくるのですか。
○若菜千穂委員　おもしろいのが、今ぱっと出てこないですが、おもしろかったのは未来の私のために今何しますみたいなものもあるし、家族のために仕事を早く帰るではないですけれども、普通にそういうのがあったのですよね。

○吉野英岐座長　はい、どうぞ。

○谷藤邦基委員　資料３の幸福宣言のところ、私は非常に興味引かれたのですけれども、最初の枠に皆さん何を書くのだろうなと。下のほうに何書くかというのは、ある意味おのずと決まってくる、その人なりに決まってくるのだと思うのですけれども、最初の枠に何書くのかというのは結構大きな問題のような気がしていまして、要するに自分の問題として考えているのか、あるいは家族とか、自分とつながりを感じられる範囲で考えているのか、あるいは大きく宮沢賢治風に世の中全体、世界で考えているのか、そういった意識が最初の枠に出てくるのだと思うのです。だから、それは私の未来のためにとかというふうな表現になることもあるかもしない、いろいろ表現はあるのでしょうけれども、そういう意識がこういう活動をやっていく中で全体的にうまくはまっていくのかどうかというのもちょっと興味引かれている部分で、私どもの活動として適切かどうかという話は抜きにしても、ここに何を皆さん書くのかなというのは非常に興味を引かれる部分ではあります。これなんか集計とったりみたいなことは特にしてないんですか。

○若菜千穂委員　ないです。

○谷藤邦基委員　そもそもぱっと思いついて、後どうしようかというのは特に考えてはいないとは思うのですけれども、何かそこら辺で、例えば地域ごとに特徴が出るかもしれない、年代ごとに特徴が出るかもしれないと思って、この幸福宣言自体が非常に貴重な資料になるのではないかなと思って、今拝見していたところであります。

○吉野英岐座長　最初に若菜委員がある意味実験的にやってみたら、結構皆さん反応が非常に高かったということと、想定外のお答えも意外と出てきたということでは、想定外の成果が出たのかなと私は思いました。なかなか幸福度というとどうしても数値、指標というのですか、あと準備とか、そういった形で世の中で使われることが多いわけですよね、県が比較して、○○県が一番幸福度が高いとか、逆に幸福度の高くない県からは苦情が来たりとか、そういった伝わり方があって、どうしても何かランキング的に見てしまうところがあるのですが、これだとランキングよりはむしろ幸福のバリエーションというのでしょうか、いろんな幸福の考え方が心の中にあるということを少し出してもらったという、ちょっと今までのやり方とは違いますけれども、岩手県として幸福をどういうふうに考えていくかという、その県が先におやりになっているものとは少し違ったものも一つのアイデアとして出せそうな手応えがいただけたということでよろしいですかね。ありがとうご

ざいました。
　どうぞ。

○竹澤政策地域部政策推進室評価課長　ご紹介をさせていただきたいのですけれども、この手引をまとめるに当たって、若菜委員さんのほうからいろいろご助言をいただきました。13ページの下のほうを見ていただきたいのですけれども、「自分や周りの人の幸福を高めるために、どんなことがしたいか？」というふうに続けて、次のページでございますけれども、アイデアを出していただいて、岩手が優れているところ、アイデアを実現するに当たって岩手が優れているところ、岩手で改善すべきところへ書き出してみようとなっています。当初の案ですと、ここはいきなり岩手の強み、弱みを書き出してみようだったのですけれども、そうではなくて、もっと主体的に参加者が関われるような書きぶりのほうがいいし、あとここ岩手となっていますけれども、いろんな場面で使っていただけるように、例えば市町村名ですとか、地域名ですとか、ここを変えていただければ、岩手だけではなくてその地域地域、いろんな場面で使っていただければと、そういう汎用性の高い手引になるのではないですかというご助言をいただいて、ここのところを修正しているところでございますので、ご紹介いたします。

○吉野英岐座長　これは結構修正されたバージョンになっているわけですね、改定を何回か重ねて、今の形に持っていったということですね。確かにやりながら考えているところもありますので、最初から確定したやり方でやっているというよりも、やって、また少し変えて、また反応を見てということで、本当に研究会がまだ終わっているわけではないので、やりながら考えているというのは、まさにこのとおりですけれども、ある意味では本当にこの時期に岩手県として幸福度を考えていくという良さというか、比較的早く始めた県でありますので、むしろこの時期にやるとしたら今までのやり方と違うやり方の部分を打ち出していくかということも、さっきも申したとおりですけれども、必要かなと思います。
　それで、全体的には県民参画ということのキーワードで進めてきたというのもございますので、ある意味で県民とはまた別のところで全てが決まってしまって、それを公表するというようなやり方ではない形を最初からこの研究会は目指していましたので、その意味では、少し成果を出せたかなと思っております。
　どうぞ。

○若菜千穂委員　これの使い方、これからの展開なのですけれども、一般でやったときには社協さんとかは。

○吉野英岐座長　社会福祉協議会。

○若菜千穂委員　県の社協さんとかもいらっしゃっていただいて、あとは市町村も来ていて、地方創生の中でも愛着度指数とかを結構指標化しているところもあって、意外と私は参加の声掛けしたときにも、行けないけれども、とっても興味あるという反応が意外とあ

って、このワーク手引を県主催だけではなくて市町村とか、あとは本当に自治会とか、町内会とか、社協さんでもいいですし、もちろん包括さんとかでも使っていただけるような汎用性の高いものだなと感じていますので、ぜひそういうＰＲ、市町村課さんから市町村へ流すという、そういう使い方をしていただきたいなと、そういうふうになればなというのが１つ。

あと意外だったのですけれども、東北電力の東北活性研さんからも指標をやらなければいけないのだけれどもというご相談があったときに、彼らは移住定住に絡めて指標を使いたいと。どういう使い方かなと思ったのですけれども、東京で移住定住のフォーラムがあったときにふるさと回帰センターさんから出たのが、何度も何度も相談に来るのだけれども、結局決まらない、相談リピーターみたいな人がいるのだという、移住をしたいのだけれども、全然決まらない、紹介しても「嫌だ、嫌だ」と言われる人たちがいて、彼らは何で決まらないかというと、結局どういうところに移住したいか、何のために移住したいか目的がはっきりしないから移住先が決まらない。それって、この幸福にも近くて、自分が生活する上で重視しているものは経済的な仕事なのか、生活環境なのか、家族の子育てなのかという、その重点を波及するのにもしかしたらこの手引というか、この手順はすごくいいのだなと思っていて、もしかしたら移住定住の相談窓口で相談者と一緒にこれやってみるとかという可能性が凄くあるなというふうに思っていますので、評価課さんですけれども、そういう意味では、これというのはいろんな使い方ができるなと、岩手だから幸福を多角的に捉えられるということもあると思うので、ぜひそういう視野を広げた使い方の普及をしていただけたらなと思います。

○吉野英岐座長　ありがとうございました。これは今どこにあるのですか、ここにはあるけれども、特にまだ公開してないんですか。

○竹澤政策地域部政策推進室評価課長　まだ公表はしていないのですけれども、会議資料としては研究会終了後にホームページに掲載することになります。また、この研究会から最終報告いただいた暁には研究会のお墨つきのものとして県のホームページに出したいと思います。また、今若菜委員さんからお話ございましたけれども、政策地域部、市町村課も所管しておりますし、あと移住定住を所管しております地域振興室も同じ部内にありますので、そちらとも連携をとりながら、こういったツールがあるということを部内で共有していきたいと考えております。

○吉野英岐座長　わかりました。まだバージョンアップする可能性もありますし、もしかしたらどこかでテストしていただく可能性もあるかもしれないので、これは９月ごろ終わるので、それまでにはより精度を高めて公開できれば公開していきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。よろしいですかね。それでは、この案件につきましてはここまでといたします。

（３）具体的な客観的指標の例について

○吉野英岐座長　続きましては、協議の３番目です。具体的な客観的指標の例についてと

いうことで、これも、ではお願いいたします。

【資料№２、４説明】

○吉野英岐座長　ありがとうございました。59 本もありますので、なかなか目があちこち行ってしまいますけれども、大きく分けると４つの分野にまとめていただきまして、経済状況、生活、ひと、つながりということになっています。経済だけでも 18 本あります。

谷藤委員は、このあたりはいかがでしょうか。

○谷藤邦基委員　経済云々というよりも、まずその前にちょっと全般によくわからないところを質問させていただきたいのですが、上から１番のところ、完全失業率、単位が「倍」になっているけれども、これパーセントじゃないのというのが一つあります。

それから、次のページに行って、27 番の３次活動時間、週全体ということで 371 という数字が出ているのですが、この理解の仕方がよくわからない。１週間で 371 時間ということはあり得ないから、ちょっとそこ、年間で 371 時間ならわかるけれども、では週全体でどういうふうになるのかな、ちょっとそこまだ理解できませんでした。

それから、見ていって、さっき婚姻率についてご説明があったので、ある程度わかりましたけれども、単位はそうすると本当に「パーセント」なのですかというのがあります。「人」じゃないの。細かいといえば細かいけれども、ちょっとそういう疑問はありました。

あと森林関係のところの 68 番、森林面積割合であれば「ヘクタール」ではなくて、これ「パーセント」ではないですかね。74.9 とあるけれども、74.9 ヘクタールなのかといったようなあたりがまず最初に疑問として思っているところです、中身どうのという前にですね。わかるところがあれば、ちょっとお答えいただければと思いますけれども。

○竹澤政策地域部政策推進室評価課長　大変申しわけございませんでした。完全失業率は、これは「倍」ではなく「パーセント」でございます。下の求人倍率と勘違いしておりました。失礼しました。

今すぐわかるところですと 48 番の婚姻率でございますが、これ人口 1,000 人当たりでございますので、百分率ではないですね、千分率になります。

あと森林面積については、これは「ヘクタール」ではなく「パーセント」でございます。

27 番の３次活動時間でございますけれども、26 ページの 27 番でございますが、これは 371 分です。大変失礼しました。単位は時間ではなく、分でございました。失礼いたしました。

○吉野英岐座長　まず、ご質問・あるでしょうか。

○谷藤邦基委員　世の中にデータ的に幸福をはかるためにとられているデータというのは多分ないので、なかなか苦労されているだろうなと思って拝見していました。

一つ思うのは、特に経済関係なんかですとどうしても集計したり、平均したりすること

によって見えなくなる部分というのがあるのです。例えば有効求人倍率、ここは正社員ということなので１倍を下回っていますが、非正規まで含めると有効求人倍率ということであればここしばらくはずっと１倍、岩手県でも１倍超えている。だから、皆さんハッピーで問題ないでしょうと。しかし、実は業種別のばらつきが非常に大きいのですよね。特に比較的求職者の多い分野で行くと、事務系の仕事というのはほとんど求人、ほとんどとは言いませんけれども、かなり求人が少なくて、多分 0.3 倍とか 0.4 倍とかそんなレベルなのですよね。平均とか集計値で見てしまうとそこが見えなくなってしまうのですよ。結局困っている人というのは、多分見えなくなっているところにいるので、だからそこをどう見たらいいのかな、幸福というとどちらかというとその反対側のほうの話になるのかもしれないのだけれども、そこら辺、今あるデータでも最後に出てくる最終的な倍率とかだけではなくて、もうちょっとミクロな見方をしたほうがいいものもあるかもしれないなと、それがまず一般論的な話として一つ頭に入れていただきたいところです。

あとは生産活動関係のところ、相当苦労されてこういうふうにしたのだろうと思うのですが、農業産出額以下のところは岩手らしさを何とか出そうと、多分そういうことなのだろうと思うけれども、確かにこれ以上何かあるかというとなかなか難しいのですけれども、それをさらに幸福とどう絡めるかという話になると本当に難しい気はしています。例えば純粋に経済レベル、それから産業レベルの分析として言うと、例えば小売業の世界では岩手県の場合、面積が広くて人口が少ない、要するに人口密度が低いというのが小売業分野では非常にネックになっているわけですよね。１店舗当たりの商圏が広くならざるを得ないから、要するに密度が薄いというような状況が出て、それが幸福とどう絡むかというと、いわゆる買い物難民の話なんか、あえて結びつければ結びつくのかなという気がしますけれども、何かそういったものをはかる方法はないのか。さっきの話でも交通の方のアクセス時間、アクセス方法みたいな話があったと思うのですが、何かそういった観点もあっていいのかなとはちょっと思いました。調査はあるけれども、不定期なのでという話もありましたけれども、参考程度として出すとかというのもあるかもしれないし、経済関係に関しては、いずれそこら辺、マクロの数字で見てしまったときに見えなくなるところをどうフォローするか、あるいはどこまで細かく見たらいいのかというあたりですね、そこは良く検討の必要があるかなと思って拝見していました。

あとほかの分野について、せっかくの機会なので言わせていただくと、つながりのところで、53 番にＮＰＯ法人認証数というのが出ていて、これちょっと前であれば非常にいいデータになったかと思うのですけれども、最近だと一般社団法人というのが非常に簡単に法人格とれるので、そっちで法人格とって活動しているケースも結構出てきているような印象があるのです。だから、そこら辺こういう見方だけでいいかどうかというのはちょっと検討していただいたほうがいいのかなと。

それから、民生委員数という項目があるのですけれども、実は私も町内会で色々話聞いているとなかなかなり手がいないという現状があって、どうも仕事と見返りという言い方はちょっと良くないかもしれないけれども、そういうことで見ていくとやっぱりなり手がないのもわかるなという気はします。そういう意味では、これそもそも制度疲労をしている分野なので、将来的にどうかというと、今のところ全国順位でもいいほうの順位になっているから入れたいという思いはあるのかもしれませんけれども、ちょっと先々どうかな

という感じはしていました。

あとちょっと戻って 55 番の共同募金、やっぱり違和感はあります、私個人的に。町内会の活動とも絡む話で、町内会を通じた募金というのもあっていいのでしょうけれども、でも何かそこちょっと違和感は感じるところです。

それから、59 番の出国者数というのが多文化共生関係の項目で出ているのですけれども、私はこれ端的に所得水準を反映している数字になっているような気がして、多文化共生、要するに交流という観点で考えたときに、果たしてこれ適切なのかなというのはちょっと思っていました。

疑問な点を含めて、私が今思っているところはこんなところです。

○吉野英岐座長　ありがとうございました。まずいろいろご意見を伺いましょうね。

若菜委員さん。

○若菜千穂委員　こんなにいっぱいあるのだなと。あと岩手は悪いのだけではなくて、いいのもあるのだなと。

○吉野英岐座長　それはありますよ。

○若菜千穂委員　勉強しました。私からは特にないですが、さっきの谷藤委員のコメントで、赤い羽根の共募は、共募の委員会にも私は出ていて、共募の中でもこういう同じような議論はあるのですが、自治会、町内会で、うちの班もそうですけれども、まとめてまるっと集金して、その中から出しているので、そういう意味では隣組がまだまだ生き生きしているのだなというところでつながりに入っているということで、そういう理解でいいのかなと。募金意識が高いということではないと、つながりが明記されているのだよという私は理解でこれを見ていたので、まずはいいのかなというふうには思いました。

○吉野英岐座長　竹村委員の方からはいかがでしょうか。

○竹村祥子委員　１つは、25 ページの上に書いてあった、次期総合計画の検討ということに使える指標を考えるということの選定だったと思っているのです。なので、あまり長期間使える客観的指標を選んだわけではなかったということを今思い出したということと、それから、だとすれば数字が高くなっていくことがよいのか、低くなっていくことがよいのか、非常に明確なことも幾つもあるわけですけれども、これはどうだったのだろうと思うようなものもあって、一旦並んでしまうと何か使えるような気になってしまうのですが、そこのところを何のためにこの指標を使い、そしてこれは上がっていくことを見るのか、それとも現状を示しているので、これ以上下げないような何かを考えるのかというような、そういうスケールでもう一度ふるいにかけてもいいのかなというのが思ったところです。そういうふうに見ると、私は専門が家族社会学なので、つい家族とか、そこら辺に目が行

ってしまうのですが、婚姻関係の婚姻率については、先ほどご説明があって、生涯未婚を使わないということについてもなるほどということだったわけです。ですけれども、婚姻率が高くなることが目標か、まずこれは県の政策の方針としては、婚姻を推奨、支援する方針はあるのでしょうが…。だから、これは出しておいて、いいのかもしれないのだけれども、そのことを婚姻率ではかりますか、また婚姻率が高くなることが幸福という指標として使いますかというのは問われると思います。

同じように、実は３世代同居率もそうなのです。全国比較をしたときに確かに岩手県は高いということがあるわけです。ただ、ここはもう一つ気になるのは東日本大震災で沿岸地域は仮設住宅をたくさん作ったということです。それが 2010 年から 2015 年、国勢調査の間に起こっているということです。ここでは、同居に関していえば仮設住宅では高校生以上の大人４人は同居しにくいわけですし、被災後、住まい方を主体的に選択できたわけではないので、３世代同居率は今後多分低くなるわけですね。低くなっていく…、全国比較すれば高いかもしれないですけれども、震災の影響が色濃く出るのではないかというふうに思う３世代同居率を幸福度の指標とするのかというのは、今回はちょっと考えなければいけないのではないかというのが感じるところでした。　以上です。

○吉野英岐座長　ありがとうございました。

はい、どうぞ。

○谷藤邦基委員　竹村先生から震災の影響のお話があって、それに関連するのですが、実は他の項目でもその影響が出てきそうなところというのはあって、例えば経済状況で言うと６番の１人当たりの県民所得ですね、これは長期的には多分下がっていきますので、平成 25 年のデータがここに出ていますけれども、ちょうど復興事業がピーク前後だったところの数字で、26 年ぐらいまではまだいいかもしれないけれども、だんだんこれいずれ減っていくのは間違いないのですよ。県の予算も今度１兆円割ったのですよね、確か。要するに、県あるいは行政関係の支出というのはほとんどそのまま最終需要を構成しているので、そこが減っていくということは、もうおのずと１人当たり県民所得も減ってくる。それ以上に人口が減ればという話はまたあるかもしれないですけれども、それがいいことではないとは思うので。

いずれにしても言いたいことは、要は３世代同居のほうまで影響があるというのはちょっと思い至らなかったのですが、いろいろな形で震災の影響で全体が、普段とはちょっと違うデータになっているという状況がいろんなところにあるはずなので、そこをどう調整して見ていくかという視点も多分必要なのですよね。落ち着いた状況からスタートしているならいいのですけれども、今ちょうど震災の影響で、数値が通常とは違う数値になっているというところからスタートすると、何を基準に見たらいいのかということで、ちょっとそこに混乱が生じるおそれがあるし、数字が悪化しているではないかと、なぜだという議論は当然出てくるわけで、ただそれは震災の影響でこの数値は将来的に多少なりとも悪化しますというのが見えているところがいっぱいあるので、そこは何かの形で調整をするか、あるいは別途説明を入れておくか、そういったことをやっていかないと客観指標であ

るがゆえにちょっと面倒な話になってくる可能性があるので、そこはちょっといろんな場面で、私は経済しか考えていなかったけれども、そういう点が出てくるということが今お話伺っていてわかったので、全般にそういうのはちょっと一回チェック入れたほうがいいかと思います。

○吉野英岐座長　ありがとうございました。
はい。

○竹澤政策地域部政策推進室評価課長　まず、震災の影響についてでございますけれども、確かに震災の影響があって、県内の総生産が大きくなっているという面は実際にあります。今回の幸福の指標ですけれども、単年度、単年度で数字を見ていくという考えではなかったと思います。長期的に指標がどういう推移をとっていくのかというのを見ていくという考えだったと思いますので、今回 25 年の県民１人当たりの所得の数字を載せておりますけれども、参考数値として震災前の平成 22 年の数値も載せるですとか、そういった参考数値を載せるようなことも可能なのかなとは思っておりました。

あと谷藤先生のほうからいただいたご意見の中で、平均にすると見えなくなってしまう部分があるというのはまさにそのとおりだと思っておりまして、県民一人一人の幸福になりたいという気持ちを行政として地域と一緒になって後押ししていくというのが今回の取り組みの大きな目的だと思いますので、そういった場合に隠れてしまうような部分を明らかにする必要があるだろうと、そのためには平均値を示しつつも、できるだけ実数を参考数値として載せるような方法を考えていければいいかなと思っておりました。

あと買い物難民についてもデータがとれないというのがあるのですけれども、それについても継続してデータがとれない可能性があるということなのですけれども、それについても参考数値として載せていくということもできるかなとは考えております。

あとは竹村先生のほうからお話がありました、例えば婚姻率、３世代同居率、この数字を上げることを県として目標にしているのかということでございますけれども、特に婚姻率、３世代同居率を上げることについて価値判断は特に今のところは、県としてはないわけでございまして、つながり、婚姻関係、世帯構成関係という項目の中で指標を選ぶとこれが出てくるのかなということで提示をさせていただいております。

先ほど婚姻について、県のほうで積極的に推進しているというお話がございましたけれども、恐らく県の立場としては結婚するしないは個人の自由であるけれども、結婚したいのだけれども、なかなか機会に恵まれないような方々に対してはｉ―サポのような施設をつくってマッチング支援をさせていただいていると。あくまでも個人の自由を尊重しているという、そういう立場になろうかと思います。この辺は非常に微妙なところかなとは思っておりましたので、先生方のご意見をお聞かせいただければなとは思っております。

○吉野英岐座長　はい。

○若菜千穂委員　今の議論で言うと、竹村委員のご指摘の部分で、この指標というのは政

策に直結するかどうかということかなと。だから、この婚姻率なのですけれども、指標名で婚姻率を高めます、３世代同居率を高めますと、これが施策として適切なのかどうかということで、そういう評価をしてふるいをかけたほうがいいということですよね。

○竹村祥子委員　政策直接でなくても、何か政策につながる指標なのか、それともこれまでの評価みたいなものをはかるための指標なのか、どちらで考えても婚姻率、３世代同居率というのは微妙という感じがするのです。

○若菜千穂委員　だから、そういう視点で私ももうちょっと減らしてもいいのかなと。婚姻率を高めますというのは、要するに目標としては人口をふやす、出生率を上げる、人口を増やすというところが先にあっての婚姻率ですよね。

○吉野英岐座長　国も、たしか県もだったと思いますけれども、合計特殊出生率を上げることを目標に掲げておりますが、その考え方の根底にあるのは結婚を希望される方が結婚をして、なおかつ結婚した方が希望する子供の数が得られれば今の出生率が 1.8 になるだろうといって、希望が叶った場合には合計特殊出生率は 1.8 になるだろうと、そういう目標の考え方をしているはずです。

○若菜千穂委員　施策として婚姻率を高めることは別にやらなくてもいいのかなという気もするのですけれども、ちょっと思ったのが人口をふやすというところに婚姻率というのを入れるのであればサブ指標みたいな、ちょっと参考数値みたいな形でランクを下げるというのもありかなと、そういうことであれば３世代同居率を高めますということが施策としての目標になる、もしくはやる、そういうのがないのであればもう消してしまうという、そういうふうに見ていくと、そういうふうに全部読みかえていくと、気になるのが、どうでもいいかもしれないけれども、常設映画館数を増やしますという施策はどうだと、あくまでも参考値で。参考値、そういうふうに何とか、施策何とかします、何とかします、何とかされますというような読みかえで全部いくと一回振り分けできるのかなというのは、意見を聞いて思います。あくまでも参考値であれば、サブ指標として入れるか、もう私は消してもいいかなというふうに思います。

○吉野英岐座長　ありがとうございました。今一遍に出ていますものね、特に指標の部門分けはしているけれども、本当に使う指標なのか、ウオッチする指標なのかという区分も今のところまだないので、もしそういう区分もあってもいいのではないかということですね。

あとは、これ総計審の指標を一応ベースラインにしていますので、総計審とこの委員会のリンクというのはまだ直接的なものではないかもしれませんけれども、総計審もどっちも今後の総合計画を作るときに本当に幸福的な考え方を盛り込もうとすれば少し指標の仕分けもしてくるのかなというふうにも思って聞いていました。

私自身は、これもともとはこういったナショナルミニマムとか、シビルミニマムという、いわゆるシビルであれば自治体がやるのですけれども、東京都なんかさまざま都民とか県

民の生活水準を見える化して、それに目標を一定程度付けて持っていくという、しかも総合的にということでもともとは 70 年代に始まっている思想というか考え方で、そのときはまだわかりやすいというか、社会が価値観がこれほど多様化していなかったり、希望するとかしないとかあまり言わなくても済んだとかという時代だったと思うのですけれども、現行では何度もおっしゃっていただいているように、数値そのものをバックに希望をする場合というか、あるいは希望をしてもできない人たちに対する施策という限定つきの施策も結構あって、希望しない人までその施策の対象者にしているということではございませんというような留保をつけて今施策をしているということと、しかし全員が希望しているのかもしれないという、全員にとってみてプラスの指標というのになるわけではないので、その辺確かにどういうふうに切り分けていくかというのもいずれ正確にやるとすれば必要かなと思いました。

また、なかなかあれですよね、都市的指標がどうしても多いので、岩手のような県土の広い、自然環境の非常に優れた土地柄をどういうふうに都市的な指標以外のもので見ていくかというのも必要かなと思っていました。全然これは思いつきですけれども、例えば温泉数というのが出てくるのでしょうけれども、温泉があったら幸せかと言われるとちょっとそれは短絡的だろうとは言われますけれども、岩手が持っている資源の非常に強みとして、やはりあるだろうなと、県民感覚的にも恐らく気軽に温泉に行けてしまうとか、沸かし湯とか人工ではなく、まさに天然の資源を享受できるような施設などなどが結構いっぱいある県ではないかなというのはどういうふうに盛り込もうかとか、客観的には数字とれるのですけれども、そういうことというのは全国と比較してもどうなのよという意見もあったりしますので、なかなか出しにくいのかもしれませんけれども、何かそういう岩手県的なものをはかる指標もあるのかなと。例えば消防団員数というのは、いわゆるあれですよね、常備消防で、消防庁あるいは県の消防がやっている職業としての消防の人数だけではなくて、市町村が条例定数で持っている非常勤公務員ですけれども、消防団というのは実は岩手県は非常に熱心で、あれがないと山火事消せないので、岩手の山火事火災というものを前提に考えれば常備消防でやれない、間に合わないということもあって、そういった意味で岩手県が県民参加の形で環境を守っているというものも、ある意味では岩手県の生活を安定させている、幸福を崩さないというような、全部燃えてしまったらまずいので、そういった指標的なものも取り込めないかなと、研究したほうがいいかなと思って聞いていました。

意外となかったのが１人当たり医療費とか、これも安ければいいのかという議論ももちろんあるのですが、高いと財政的には非常に厳しい指標になっていますので、できれば健康で長生きして、医療費がかからない暮らし方というのが、長野県なんかは低いと聞いておりますけれども、できれば別に都会、岩手に限らず、医療費なんかは結構自治体としても下げたいし、医療をする場所を減らせという意味ではなくて、健康をはかる代替指標のような形で医療費の増減なんかも見れるかなと思っていました。

あと岩手県の特徴として、自営業層が非常に多い県なのだと、私が前の数値を見ていると自営業者という人たちが、要するに給料を取っていないというか、例えば農業、漁業、林業、その他中小の商工業等々で毎月の給料ではなく、経営者の所得、家族従業者という所得で生活を賄っている人たちというのが実は非常に多くて、自営業者が多いというのは

どういう意味なのかということが、またこれも考え方難しいのですけれども、必ずしも給与所得額で反映はできない部分で生活はしているけれども、結構安定しているという人たちは他県に比べれば多いと。そういう人たちの暮らしをどういうふうに安定、あるいはプラスに持っていくという指標があるのかなということで、必ずしも毎月のいわゆる勤労者というのでしょうか、月間給与額が決まっている人たちではない人たちの暮らし方をうまく指標化して取り入れると、岩手の人たちの暮らしを少し反映する可能性は高いかなということもちょっとちらちら見ておりました。

あとはさまざまですけれども、岩手県は郷土芸能が非常に盛んな県で、これ多分多くの県民の方々がうちにも何とかあるよと、うちでも毎年何月何日はこれやっているよと、割と共有されている意識が県民のほうにも、あるいは花巻なんかすごく多いところなのです。ああいうものというのは、なかなか指標化していないのですけれども、やっぱり皆さんで取り組む団体数とか、何と言うかわからないですけれども、数なんかはその分野で出ているわけですよね。これが郷土芸能をたくさんやっていれば幸せかというと、また色々ご意見はあるところだと思いますが、やっぱり都会とか、あるいは新しく人が住みついたところではない、ならではの、古くから人が住んでいて、地域として一生懸命行事をやってきたということを逆に評価する指標としてはどういう形で見ていけばいいのかなと、ある意味で岩手県は安定した住まい方をしている方がいらっしゃるので、それは発展がないというだけで切ってしまってはちょっと申し訳ないので、そういった長い暮らしをきちんと継続できてきたことをうまく数字で表すには何がよろしいのかなとか、現代生活の生活水準というような指標だけではなくて、非常に長い歴史を乗り越えてきた暮らし方を何かの形で評価するとしたらどうだろうかなということもちょっと総計審で入れるかどうか全然わからないですけれども、こういったこれまでいろいろ岩手の県民の方々の幸福度なんかを見ていくとちょっと都会的な数字ではない数値も反映できたらいいのではないかなと思って聞いていました。

色々ありますよね、ウインカーを出さない何とか県とか最近ありまして、そんなことも調べるのかというような県も、それは一つのエピソードだと思いますけれども、そういうふうに県民の方や多くの方がなるほど、そんな数え方あったかと、それに対策もあるというぐらいですから、やっぱり既存のこういう統計データというものと少し地域ならではのデータもいいかなと。

若菜委員おっしゃっていましたが、竹村先生もおっしゃっていましたけれども、指標の価値がすごく難しくて、上がっていけばいいのかとか、下がっていけばいいのかとか、あるいは安定していることが逆にいいのか、さまざまな考え方がありますので、今回は長くとれるのだけれども、とりあえず単年度で順位づけを出していただいたと、直近のデータの順位だけでもって出しているので、例えばこれとれるということは５年前から全部とれますよとか、10 年間連続してとれますよということを担保しているわけですよね。そのとれるということはどういうふうに評価されるのだろうかと、今年の部分しかとれないのだったら、別に今年の分しか見てないならばそれでいいのだけれども、そもそも前提が長くとれる数値をとっていくというような前提で数字をとっていただいておりますので、長くとるということが変動をどう見ていくかということでしょうから、上がるべきなのか、下がるべきなのか、落ち着いているべきなのか、あるいはそもそも上がる、下がるという

量的な問題よりも変動率のほうが問題で、急激に上がったり、急激に下がったというようなことの起こること自体が県民に対しては負荷がかかっているというような見方もできるかもしれません。

ですので、今はざっと 69 本並べていただいたのですけれども、吟味というか、価値が分かれるところはなかなか本指標として持っていくのは難しいかもしれないかなと思っております。３世代同居は、特に山形県が多分全国トップで、山形県の家族が一番幸せと言っていいのかなということもありますし、３世代同居を望まないという方がもしいらっしゃれば、望まないけれども、いろんな社会経済状況で３世代同居をせざるを得ないというか、しているという方々にとってみれば必ずしもプラスとこちらで決めていくわけにもいかないかもしれないので、世の中多様化しているとなると、そういうことが結構出てきているので、その辺はより精査していただければと思っておりました。

ちょっと長くなりましたけれども、そういう感想を持ちました、私は。

○竹澤政策地域部政策推進室評価課長　大変重要なご指摘を委員の皆様からいただいたと思います。大きくは今 69 本提示させていただいた指標ですけれども、やはり指標は一本一本価値判断が分かれるものがございますし、あと県として第３期アクションプランの中に入れて伸ばしていくものですとか、低減していくものですとか、一定にしていくものとか、そういう目標を定めている指標がありますので、それはそれで整理をさせていただいて、一方で岩手県の現状がわかる資料、参考指標として見ていただくための指標、そういった形で大きく分けて一旦整理をさせていただいて、次回の第６回の研究会のほうにお示しをさせていただきたいなというふうに考えております。

○吉野英岐座長　ありがとうございました。研究会はまだ続きますので、次のバージョンをまた拝見させていただくということで決めたいと思います。

４　報告事項

平成 29 年県の施策に関する県民意識調査結果（速報）について

○吉野英岐座長　もう一本、きょうは報告事項が残っておりますので、先にそれを進めたいと思います。平成 29 年県の施策に関する県民意識調査結果（速報）についてということで、資料に基づいて、ではご説明お願いいたします。

【資料No.５説明】

○吉野英岐座長　ありがとうございました。先生方からご感想をいただきたいのですけれども、順番は順不同で結構です。若菜さんからいきますか。

○若菜千穂委員　今回初めての調査なので、例えば 35 ページのように県央とか県北とかが高いとか、そういうような判断は全然尚早で、目標はあれですよね、県民意識調査の中で関連する質問を２個、３個、幾つに絞るのかなのですけれども、そういうふうにするのが目標で、どの聞き方が一番いいのかというのを実際相関係数とかとったりしておられるのかなと思いますので、その分析を待ちたいなというのと、あとは経年で見ていくことに

なるのかなというふうに思いますので、次回の報告を楽しみにしております。

○吉野英岐座長　ありがとうございました。
　谷藤委員はいかがですか。

○谷藤邦基委員　現状で余り申し上げることはないというか、若菜委員からも色々お話あったとおりで、次にどういう分析されるのかなというのは非常に興味深いところ。
　あともう一つは、中間報告でも表を示しているわけですが、要は領域別実感と統計データとのかかわり、さっき議論したところの客観的指標ですね、それとのかかわりをどう判断するのか。一回だけなら多分関係を出しにくいと思うのです。さっき言えばよかったのですけれども、客観指標のほうも動いているものがあれば、要するに変動しているデータがあればその変動が領域別実感なり主観的幸福感のほうにどれだけ影響しているかしてないかというのは見えると思うのですけれども、多分動かない指標というのも結構あって、例えば森林面積の割合なんて多分そうそう変わらないですよね。ただ、豊かな自然があるということについて、非常に評価している回答が多かったのです、たしか。８割以上の方が、自然に恵まれていると感じますというのは、こういったものには非常に大きく寄与しているのだろうと思うのです。ただ、動いていないから、本当に寄与しているかというと、多分統計的に出すのは難しい。そういったあたりどう判断していくのがいいのかなというような、私も実のところ良くわかりませんけれども、動いていないものをどう評価したらいいかというあたりですよね、それがどうかかわっているのか。関わっているのだろうなというふうには思えるけれども、裏づけを果たして出せるのか、なかなか難しいところです。でも、恐らく関わりありますよねというふうにアンケートとると、多くの人はあるというふうに答えるのではないかなとは思うけれども、いずれそこら辺どう消化していくのかというのはかなり難しい感じは受けています。
　あともう一つ、いつもアンケートものを見ていて思うのですけれども、私はいつも言っていることなので、また言い始めたかと思われるかもしれないのだけれども、戻ってこないアンケート票というか、要するに5,000人にアンケート調査票を発送して3,422人、68.4%の方から回答があった。普通にいったらとんでもなくいい回収率なのですが、ただ32%ぐらいの人達の回答がないわけですよね。私は、回収のバイアスとよく言うのだけれども、戻ってこない人たちというのは多分ちょっと違う回答パターンになっている人たち、もし戻ってくればですよ、になるのではないかなという思いがちょっとあります。その延長上にある問題意識は、私達は今幸福の問題を扱っているわけですけれども、私自身はどちらかというと貧困の問題のほうに問題意識があって、同じ問題の裏表とは言いませんけれども、でもどこかに接点があると思うのです。どちらかというと、そういうことで困っている人の回収率というのは多分悪いのだろうなという漠然とした予想があるので、だから戻ってこない部分の人たちの思いをどう見るのか、見えないものを見ようなんていうかなり無茶苦茶なことを実は言っているわけなのですけれども、でもそういった部分に対する目配りみたいなものは必要になってくるのかなと。具体的にどうこうしましょうという話ではないのだけれども、でもそういう思いはどこかに持っていないと、戻ってきた方々の分析だけしてどうこうというのでは十分ではないような気がしています。

すみません、いつもむちゃくちゃなことを最後に言いますけれども、そんな感じは持っておりました。

○吉野英岐座長　ありがとうございました。
竹村委員。
○竹村祥子委員　もうおよそ出ているという感じがするので。次回の検討にちょっとお願いを…、回収率を見ると高齢者の方に半分くらいということになっていると思うのです。ですから、高齢者の意見は割に反映されている結果なのだろうと。今の谷藤委員さんのおっしゃるとおりで、これだと多分若者層が余り来てないのですけれども、それでも回答している人たちがいるわけですので、年齢階層別に少し細かく分けていただけると、調査をやったかいがあるなと思うのです。もちろん振興圏別も重要ですけれども、年齢階層別、あと男女別ですね、これだけ多くの回答数があるとそこまで分けても結構大丈夫なものになるのではないかと思うのです。
あとは新しく入った項目、予測どおりに出ているのだけれども、学習する環境が充実しているというのは、やっぱり低く出たかと思って、そこはちょっとがっかりしたというか、それはまた後ほどということで、次回ということで。
以上です。

○吉野英岐座長　ありがとうございました。
そうですね、今回は、次回までにこれやっておいてという形でよろしければ、私自身はこの回収率が非常に高いので、回収率、全般としてはたくさんの方にご協力いただいた調査だと評価していいと思います。
29 ページに載っている回収状況なのですけれども、これは職業別はあらかじめというのはわかっていなかったと思うのですが、例えば男性票、女性票というのは、あらかじめ何票配ったかというのはわかっているのですか。

○竹澤政策地域部政策推進室評価課長　居住地は、市町村の選挙管理委員会で選挙人名簿を縦覧していますので、市町村ごとにどれだけのサンプルをとっているのかというのはわかります。

○吉野英岐座長　これ回収した状況でこうなっていますよということなので、さっき言ったように回収しきれなかった部分というのは当然残っているわけですね。それは反映していないのだけれども、それを間接的に見る形としては、例えば広域振興圏別の回収率というのは同じなのだろうかと、どこも同じように 68.4%返してくれているのでしょうかと、予測としては、都市圏は低くなって、町村部は高くなるのかもしれないけれども、もしそれがそうでないデータがもし出ていたとすれば、それは常識的なものとしてはちょっと理解が違うので、返していただけない人が多いということの意味を少し考えるきっかけにも

なるので、もし事前に例えば広域振興圏別の配布数ですね、配布数がわかっていれば回答数もわかっているので、地域別回収率というのは出せそうだなと思います。つまり、幸福感等々、満足感で、詳しくまだ見ていないということなのですけれども、振興圏別にデータを出していただいていますので、この４つの意味が実態を反映している数値なのか、回収率に大きな差が出ているとちょっと反映し切れてないかもしれないということなので、ちょっとそこはあらかじめ同じ回収率ですよと言えば大丈夫かなという感じをちょっと調べていただければなと思いました。

それから、今回は全体の反応数がいいのですよね。ポイントは全部上がっている、丸つけている数が単純に増えているので、それはなぜかというのはちょっとわからないのですけれども、非常にたくさん丸をつけてくださる人が全般に増えてしまって、問題数は減っていないはずなので、むしろ増えたのではなかったでしたっけ。27 年度の調査よりも 28 年度の調査のほうが少し厚くなっていますよね、幸福感入れたおかげで。でも、反応数が増えるというのは凄い熱心な方ばかり答えているといったら失礼ですけれども、普通なかなか面倒くさくて自由に丸つけてくれといっても１つ、２つしかつけない方や、全然つけてくださらない方もいるのだけれども、今回は複数回答のところで多くの丸がついているので、全体の反応率が上がっているのですけれども、これがどういうことなのか、熱心な方が増えたと考えるべきか、全体に、実態として感じている人が増えているのだということで理解してよろしいかどうかですね。

それから、あとポジティブ、ネガティブで、要するに肯定的な意見をまとめておこうと、つまり満足、やや満足とかですね、否定的な意見、満足ではないと言ったらあれですけれども、例えばさっきちょっと言った 35 ページの幸福かどうですかというのは、これ出てくるのは、これ幸福でまとめた数字ですよね、この全て。これは、例えば一つこれではかれるのだけれども、もう一つはもしかすると幸福とやや幸福の中で動いているかもしれないですね。幸福のほうでつければもちろん高くなっているはずなのだけれども、今混ぜたので、ラウンドしたので、幸福とやや幸福で、やや幸福のほうが増えて、幸福が減っているということになれば、やや見方も変わってきますので、例えば点数をつけてしまって、幸福５、やや幸福４で、真ん中３、これ５段階でしたっけね。あと２、１で、要するに点数をちょっと見せていただいて、このとおり全体に幸福というふうにつけてくださる方が半数を超えているということと、それから５点法でやってみて、実際の動きですね、去年も見ていますので、去年と見ても、５点法でやってもやっぱり高く出ているということになれば幸福からやや幸福に下がったわけではないというふうに言えるので、ちょっと一本の指標で見ると大丈夫かなというのがあるので、幾つかちょっとかけ合わせてみて、ほぼ幸福度が高くなっているというのは言えることかというふうに補強しておいてもらえるといいかなと思いました。その他のいろんなクロスはこれから出てくるし、男女別あるいは年齢別ですかね、出てくるのですけれども、やっぱりちょっと竹村先生おっしゃるように若い人が少ないのは、これはどんな調査をやってもそうなるので、29 ページを見ても、例えば 20 から 29、10 歳で 203 票しかないのです。60 から 69 で、同じ 10 歳で 838 票もあるわけです。つまり、同じ 10 歳刻みしかやってないのに、片一方の４倍票数を 60 から 69 歳が持っているということですので、当然この年齢層の意見が全体の意見に反映する可能性が高いわけですよね。そこをどう見ていくかというのが難しくて、それは年齢別にちょ

っとクロスかけて、ラインで見たほうがいいのかなと、この 10 歳刻みでやるか、もう少し３つぐらいに分けて 20 歳刻みで若年層と中年層と高年層でやるか、少し見ていかないと、どこかのお答えの影響が強く出ているかもしれない。つまり、高齢の方は結構幸福だと答えていただいているのだけれども、20 代とかになるとどうなのよという話が出てきますので、ぜひ次回のときにそれを教えていただいて、委員の皆様からお考えをまたいただくという形で進めたいと思います。きょうはとにかく速報ということですので、まず調査がちゃんと完了していますということをご報告いただいたものだと解釈しております。

他の先生方、これもやっておいていただきたいというのがありましたら。

○若菜千穂委員　当然やられると思うので一応確認ですけれども、35 の幸福、やや幸福と、あと 36 以降のそれぞれの相関どうだろうなと思っていますので、そのあたりをできればお願いしたいと思います。

○吉野英岐座長　前回やったものはやりますよね。非常に高く繋がっているところと、余り繋がっていなかったり、前回からみて２年目なので、比較もできるので、ちょっと作業は増えてしまうのだけれども、より整理した結果が出てくると思いますので、分析班には負荷がかかっていますけれども、よろしくお願いします。

以上速報ということで、次回楽しみにしたいと思います。

５　その他

○吉野英岐座長　その他については、事務局からございますでしょうか。

○竹澤政策地域部政策推進室評価課長　事務局のほうで用意しているものはございません。

○吉野英岐座長　先生方は何かございますか、よろしいですか。

「なし」の声

○吉野英岐座長　それでは、用意された議題はここまでですので、事務局のほうにお返ししたいと思います。

○竹澤政策地域部政策推進室評価課長　長時間にわたりまして、ご議論いただきまして、ありがとうございました。次回の研究会は６月下旬から７月上旬で日程調整をさせていただきたいと思います。後ほど事務局のほうからご照会させていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

６　閉　会

○竹澤政策地域部政策推進室評価課長　以上をもちまして本日の研究会を終了させていただきます。委員の皆様には長時間にわたりありがとうございました。

○吉野英岐座長　終わってしまったけれども、藤田部長、最後までいてくださったので、一言ご感想いただけたら、初めてお出でになったので。

○藤田政策地域部長　初めて今回出席させていただいて、大体の雰囲気というか、そういうのも掴めたかなというふうに思います。やっぱり幸福というのを自分なりに考える中で、非常に主観的な部分というのが強いがゆえに、特に客観的な指標のところで様々ご指摘いただきましたけれども、なかなかすぱっと主観的な分野と客観的な分野というのを割り切れないという性格のものであるなと思いました。それから客観的な指標についても世の中いろんな事象がある中で、一つ一つの指標というのをすごくパーツ、パーツを捉えていることなので、その一つが高いのがいいのか、低いのがいいのかというところは一義的に議論が難しいなと思いつつ、客観的な指標というのはある分野について複数の指標があって、それを総合的にどう見るかというのが現実的なところなのかなというのをすごく感じました。また、ご指摘いただいた中でも県として具体的な施策に結びつけるような指標として妥当なのかということでご指摘いただきましたが、これ私ども実務をやっていく中で非常に大事な視点だなというふうに思いまして、庁内でどういう形で捌いていくかというのは、また考えていきたいなと思いました。

今日１回だけでも大変勉強になりまして、また今後ともよろしくお願いいたします。

○吉野英岐座長　ありがとうございました。済みません、突然振りまして。

○藤田政策地域部長　いえいえ。

○吉野英岐座長　では、以上で。

○竹澤政策地域部政策推進室評価課長　ありがとうございました。